

胃癌 21

対象疾患: 進行・再発胃癌

【0321】XP 療法

【投与スケジュール】 1コース=21日(3週)

一般名	商品名	略号	投与量	1W	2W	3W
シスプラチン	シスプラチン	CDDP	80mg/m ²	↓ Day1		
カペシタビン	カペシタビン	Cape	2000mg/m ² /日	14日間服用		7日間休薬

【投与日のタイムテーブル】

滴下順	薬品名	用量	投与時間
Day0			(輸液量: 1500mL/日)
主管①	<入院注射> ソルデム 1 500mL	3本	持続
Day1			(輸液量: 2780mL(+α)/日) ※+αはシスプラチンの液量分
主管①	<入院注射> 生理食塩液 500mL	3本	持続
側管①	アロキシ静注 0.75mg	1本	30分
	デカドロン注射液 3.3mg	3管	
	生理食塩液 100mL	1本	
内服	アプレピタントカプセル 125mg	1カプセル	ランダ開始 60~90分前
側管②	KN3号輸液 500mL	1本	90分
	硫酸Mg補正液(1mEq/mL) 20mL	1管	
側管③	20%マンニトール注射液 300mL	1本	30分
側管④	シスプラチン(規格無し)	80mg/m ²	2時間
	生理食塩液	300mL	
側管⑤	フロセミド注 20mg	1本	5分
	生理食塩液 50mL	1本	
Day2-3			(輸液量: 1500mL/日)
主管①	<入院注射> KN3号輸液 500mL	3本	持続
内服	アプレピタントカプセル 80mg	1カプセル	午前中
内服	デカドロン錠 0.5mg	16錠/日	朝・昼食後
Day4			
内服	デカドロン錠 0.5mg	16錠/日	朝・昼食後
Day1~14			
内服	カペシタビン錠	2000mg/m ² /日	朝・夕食後

【カペシタビン 用法・用量】

体表面積	1日用量(mg)	1日用量(錠)	用法
$BSA < 1.36 \text{ m}^2$	2400mg	300mg 錠を 8 錠	1日2回 朝・夕食後 14日間服用 7日間休薬
$1.36 \leq BSA < 1.66 \text{ m}^2$	3000mg	300mg 錠を 10 錠	
$1.66 \leq BSA < 1.96 \text{ m}^2$	3600mg	300mg 錠を 12 錠	
$BSA \geq 1.96 \text{ m}^2$	4200mg	300mg 錠を 14 錠	

催吐性	高度
組織傷害性	シスプラチン: 炎症性
代表的副作用	シスプラチン >10%…悪心・嘔吐、食欲不振、倦怠感、腎機能障害、骨髄抑制 1~10%…聴力障害、末梢神経障害、電解質異常(低 Mg 血症) カペシタビン >10%…悪心、食欲不振、下痢、口内炎、手足症候群、骨髄抑制

【注意事項】

(シスプラチン)

- 光に対して不安定なため、直射日光を避け、点滴時間が 6 時間を超える場合は遮光して投与すること
- 腎毒性軽減のため、十分な量の補液が必要である。尿量や体重の変動に注意し、必要に応じ利尿剤を追加すること